

# 新たな犯罪に即応する 迅速な業務運営：

アジア太平洋におけるリアルタイム・  
リスク・インテリジェンスの有用性

# 序文

金融犯罪は加速しており、アジア太平洋(APAC)の金融機関にとってのリスクはかつてないほど高まっています。急激な経済成長、デジタル・イノベーション、国境を越えたつながりの特徴とするAPACでは、規制環境が急速に変化しています。コンプライアンスは今やバックオフィスの役割ではなく、信頼、レジリエンス、競争上の優位性を支えるために戦略上、必要不可欠な要素となっています。コンプライアンス違反は罰則のリスクがあるだけでなく、顧客の信頼と市場における地位を損ないます。

LSEGの直近の[グローバル・レポート](#)では、北米、欧州・中東・アフリカ(EMEA)、APACの金融機関が直面する課題について検証し、主な問題点や新たな優先課題を明らかにしています。本レポートでは、この調査結果を基にAPACに焦点を当て、APACが直面する特有の圧力や機会についての詳細な知見を提供します。グローバル調査では非効率率がまん延している現状とリアルタイム・インテリジェンス需要の高まりが明らかになりましたが、APACでは、手作業によるプロセス、統合に関する問題、リソースの制約といった慢性的な課題を抱えながらも、イノベーションを積極的に受け入れる姿勢が際立っています。

調査結果から読み取れるメッセージは明白です。それは、将来への備えができていない金融機関とは、テクノロジーを活用し、ワークフローを合理化し、コンプライアンスを規制上の義務ではなく成長の牽引要因として捉えている金融機関である、ということです。リスク・データへのリアルタイムでのアクセスとAIの導入は、もはや任意の選択肢ではありません。これらは厳しい時間的制約に対応し、顧客が期待するシームレスな体験を提供するために必要不可欠です。

本レポートでは、こうした知見を紹介するとともに、企業が規制上の課題をAPAC地域における成長機会に転換する方法について考えます。



**Michael Meadon,**  
リスク・セールス責任者、  
APAC、LSEG

## 調査アンケートについて

2025年半ば、LSEG リスク・インテリジェンスは、大手銀行、ウェルス・マネジメント会社及び投資顧問会社、預金金融機関(リテール及びデジタル)、投資会社(資産運用会社及び保険会社)などの金融機関でリスク・インテリジェンスに関する意思決定権限を有する上級幹部850人にアンケートを実施しました。

このグローバル調査は、以下を含む幅広い国・地域を対象としました。

- APAC (250): オーストラリア、香港、日本、マレーシア、シンガポール
- EMEA (400): フランス、ドイツ、イタリア、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、スペイン、スイス、アラブ首長国連邦(UAE)、英国
- 北米 (200): カナダ、米国



# アジア太平洋地域における主な調査結果

- 1 スクリーニングの遅延と非効率性は明白だが、国ごとに差がある:** 世界全体では、回答者の80%が、コンプライアンス・スクリーニングによってオンボーディングや決済処理が少なくとも時々遅延していると回答しました。アジア太平洋 (APAC) でもこの割合は同一で、APACの回答者の80%は「少なくとも時々」遅延が発生していると述べました。この割合は、日本と香港では90%に上昇しました。APACにおける顧客スクリーニングの最大の問題は誤検出の多さで、76%が課題として挙げました。この点は地域ごとに明確な差があり、香港では比較的多くの回答者(86%)が手作業によるレビューと是正を最大の課題に挙げたのに対し、オーストラリアでは統合に関する問題がトップ(80%)でした。
- 2 制裁データ及びリスク・データへのリアルタイムでのアクセスは必要不可欠:** 世界全体で98%の回答者が、制裁データ及びリスク・データへのリアルタイムでのアクセスが自社のコンプライアンス・ワークフローにとって重要であると回答しました。この割合はAPACでも同様でした(97%)。また、APACの回答者の55%が、リアルタイム・データは非常に重要であると述べました。
- 3 リアルタイム・データは多くのメリットをもたらすが、導入のハードルが残る:** リアルタイム・データにアクセスする最大のメリットは、APACの回答者の54%が挙げた、古いデータの利用回避です。一方、リアルタイム・ツール導入の最大のハードルは予算やリソースの制約です(52%が回答)。これは世界全体でも最大のハードルに挙げられました。
- 4 AIとワークフローの自動化は極めて重要だが、人間による作業も依然として重視されている:** APACの金融機関は、コンプライアンス・ワークフローの自動化とAI統合を、リスク・スクリーニング・プロセスの有効性を改善するための重要な優先課題とみなしており、23%の回答者が重点分野に挙げました。



# 地域における 最大の課題

## APACの金融機関はスクリーニングの 遅延と誤検出の多さを挙げている。

世界全体では、回答者の80%が、コンプライアンス・スクリーニングによってオンボーディングと決済処理が少なくとも時々遅延していると回答しました。この結果はAPACでも同様です。



APAC全体で80%もの回答者が、「少なくとも時々」遅延が発生していると回答しました。この割合は、日本と香港では90%に上昇しました。



オーストラリアでは12%の回答者が「常に」遅延が発生していると回答しました(反対に、マレーシアは0%です)。世界平均は6%でした。

スクリーニング・プロセスを手作業で行っているか自動化しているかについては、完全に自動化しているという回答の割合が最も高かったのはシンガポール(6%)です。完全に手作業であるという回答の割合が最も高かったのは日本(12%)です。APACのすべての地域で、手作業と自動化ソリューションを組み合わせ利用しているという回答の割合が最も高くなりました。

顧客スクリーニングにおける主な問題点について見ると、APACの回答者は、制裁、重要な公的地位を有する者(PEPs)、アドバース・メディアのスクリーニングで生じている課題として以下の3つを上位に挙げています。

- ▶ 誤検出の多さ(76%)
- ▶ 手作業によるレビューと是正の負担(74%)
- ▶ 既存システムとの統合の問題(74%)

上記の結果は、順位は異なるものの、他の地域で挙げられた上位3つの課題と同様です。APAC内では地域ごとに明確な差があり、日本と香港では比較的多くの回答者が誤検出の多さ(ともに80%)を挙げたのに対し、オーストラリアでは比較的少数でした(72%)。香港では、手作業によるレビューと是正を最大の課題に挙げた回答者が最多(86%)となりました。オーストラリアでは、統合に関する問題がトップ(80%)でした。

マレーシアでは、全体的に課題を挙げた回答者が非常に少ない結果となりました。例えば、手作業によるレビューと是正の負担を課題に挙げた回答者は62%にとどまりました。

現在の制裁及びリスクに関するスクリーニング・データの正確性と完全性をどの程度信頼しているかという質問については、APACの半数弱(44%)が「非常に信頼している」と回答しました。これは欧州・中東・アフリカ(EMEA)(45%)と北米(53%)の平均を若干上回っています。

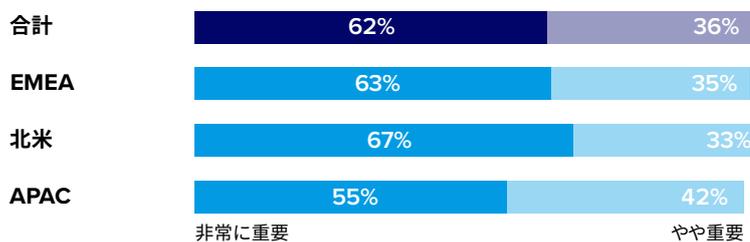


# 金融機関が本当に必要としているものは何か？

## スピードと戦略性を向上させるリアルタイム・データ

全世界で98%と非常に多くの回答者が、自社のコンプライアンス・ワークフローにとってリアルタイム・データが重要であると考えています。APACでは、同じ回答の割合は97%とごくわずかに低下しました。APACの回答者は、55%が「非常に重要」、42%が「やや重要」と回答しました。

## 現在のコンプライアンス・ワークフローにおける制裁データ及びリスク・データへのリアルタイム・アクセスの重要性



APAC内では地域ごとに明確な差があり、マレーシアでは66%、オーストラリアでは62%がリアルタイム・データを非常に重要と考えているのに対し、香港では34%にとどまっています。

またAPACの回答者の62%は、顧客スクリーニング・ツールについて考える上で最も重要な要素として、リアルタイム・データへのアクセスを選択しました。やはり地域ごとに明確な差があり、この選択肢を選んだ割合はマレーシアが72%、オーストラリアが70%であるのに対し、香港は48%と大幅に低くなっています。香港では、リスク選好のカスタマイズと、誤検出の低減による精度向上がより重要(ともに54%)とみなされています。

回答者がこの選択肢を選んだ理由には、重要なデータをリアルタイムで利用できることによる確かなメリットが表れています。APACの回答者は、リアルタイムでのアクセスが以下に役立つと回答しました。

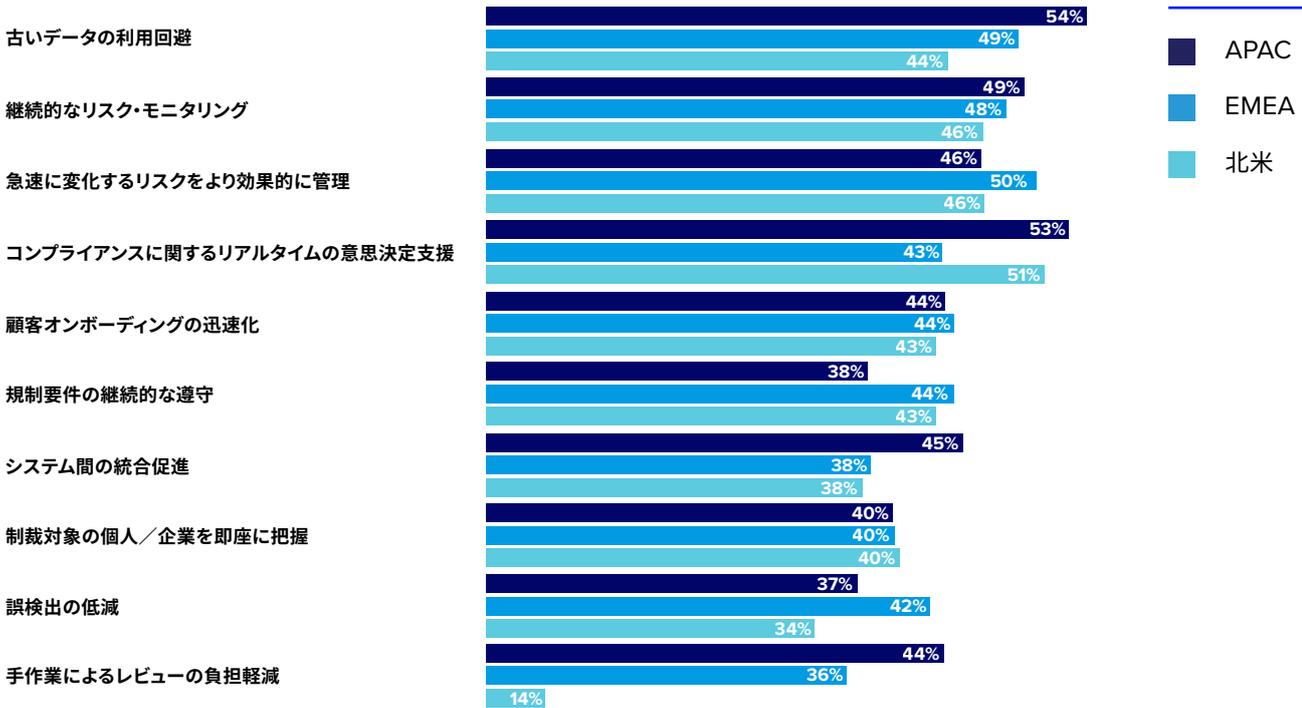
- ▶ 古いデータの利用回避(54%)
- ▶ コンプライアンスに関するリアルタイムの意思決定支援(53%)
- ▶ 継続的なリスク・モニタリング(48%)

これらは世界全体における上位の回答と類似しています。ただし、APAC地域では、コンプライアンスに関するリアルタイムの意思決定支援により大きな重点が置かれています(世界全体では48%が選択)。

興味深いことに、APACとEMEAの回答者は、手作業によるレビューの負担軽減を北米の回答者よりも非常に重視しています。これは、北米の金融機関がコンプライアンス・スクリーニングにおける自動化で先行していること(90%がほとんど、完全に、または部分的に自動化済み)を反映していると考えられます。

## 手作業によるレビューの負担軽減は、APACとEMEAでは北米に比べて非常に重要性が高いとみなされている

顧客スクリーニング・ツールについて考える上で、リアルタイム・データへのアクセスが重要な要素である理由



また、リアルタイム・ツール及びデータの導入に対する最大の障壁についても調査しました。APACでは、スクリーニング・ツールの選択においてリアルタイム・データへのアクセスが重要ではない理由について、以下の3つが上位に挙がりました。

- ▶ 予算やリソースの制約により、リアルタイム・ツールの導入が不可能 (52%)
- ▶ 規制要件上、リアルタイムでの確認が要求されていない (45%)
- ▶ リスク選好上、確認が遅くても問題ない (43%)

上位3つの理由は、他の地域で挙げられた理由とはやや異なっていますが、予算の制約は他の地域でも同様にトップとなっています。

予算上の懸念についても国ごとに明確な違いがあります。日本では60%が予算を最大の懸念に挙げたのに対し、オーストラリアでは47%でした。

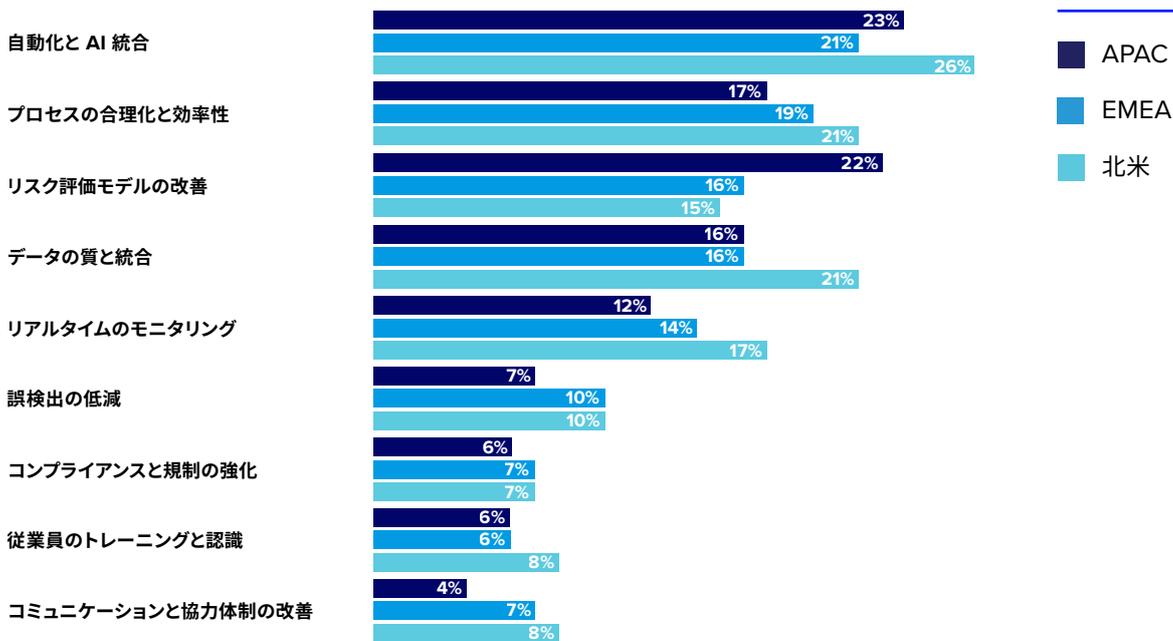
# AIのメリットの認識

## AIには人間の取り組みを向上させる大きなポテンシャルがある

APACでは、スクリーニングに関する慢性的な課題に対処するために、AIと自動化の活用に強い関心が寄せられていることが調査で明らかになっています。APACの金融機関は自動化とAI統合を、リスク・スクリーニング・プロセスの有効性を改善するための重要な優先課題とみなしており、23% が重点分野に挙げています。

## 市場全体では、自動化と AI 統合は リスク・スクリーニング・プロセスを 最も大きく改善する要素とみなされている

リスク・スクリーニング・プロセスの有効性の改善につながると考えられる変化



回答者は、データの正確性向上、複雑なマネーロンダリングのパターンを検知する深層学習モデルの導入、より厳格な誤検出フィルターによるリアルタイム・スクリーニングの改善などを優先課題として挙げました。人間の判断を完全にAIに置き換えるのではなく、ワークフローの合理化、最新の制裁データの確保、継続的な従業員トレーニングの支援にAIを活用することでコンプライアンス・チームを補完できるという認識が、APAC 全体で高まっています。

# アジア太平洋の金融機関への提言

## リアルタイム・データと信頼できるパートナーシップは将来の成功のカギとなる。

詐欺と金融犯罪が世界的に急増し続ける中、金融機関に対して、規制の変化と顧客要求の高度化への対応を求める圧力は強まっています。誤検出の多さ、手作業によるレビューのボトルネック、システム統合の問題といった慢性的な課題は、よりスマートかつ迅速でレジリエントなコンプライアンス戦略の必要性を浮き彫りにしています。ここでは、APACの金融機関がこの複雑な環境に対処し、将来の成功に向けて態勢を整えることができるよう、調査結果に基づいた以下の5つの重要な提言をご紹介します。

1

リアルタイム・データへのアクセスに優先的に取り組む

今日の急速に変化する規制環境において、制裁データ及びリスク・データへのリアルタイムでのアクセスはもはや任意の選択肢ではなく、必須の要素です。EU即時決済規制などの規制では即時の送金が義務付けられており、スクリーニングの速度は極めて重要なコンプライアンス要素となっています。リアルタイム・データへのアクセスに投資する金融機関は、リスク・エクスポージャーを削減できるだけでなく、シームレスで信頼性の高いカスタマー・エクスペリエンスを提供できるでしょう。

2

自動化とAIを導入する

自動化とAIは、誤検出の多さや、手作業によるレビューのボトルネックといった慢性的な課題に対処する強力なツールです。これらのテクノロジーをスクリーニング・ワークフローに統合することで、金融機関は効率性と正確性を大幅に改善できます。重要なのは、AIを人間に置き換わるものではなく、トレーニングを支援し、意思決定を向上させ、人的リソースを解放してより付加価値の高い業務に投入するためのイネーブラーとみなすべきだということです。

3

スクリーニング・プロセスを最適化する

APACでは依然として遅延と非効率がまん延しており、コンプライアンス・ワークフロー合理化の差し迫った必要性が浮き彫りとなっています。金融機関は、より迅速で効果的なスクリーニングを実現するために、システム統合とプロセスの再設計に重点を置く必要があります。プロセスが最適化されると、業務負担が軽減されるだけでなく、規制の変化と顧客ニーズの進化に迅速に対応できるようになります。

4

人間による監視を維持する

テクノロジーがコンプライアンスを加速させる一方、複雑で繊細なリスク評価を行うためには人間による判断も引き続き必要不可欠です。「ヒューマン・イン・ザ・ループ」のアプローチは、専門家の監視によって自動化とAIを確実に補完し、正確性と説明責任を守るものです。このバランスが、規制当局と顧客から等しく信頼を得るカギとなります。

5

信頼できるパートナーシップを構築する

適切なリスク・インテリジェンス・パートナーを選択することは、将来の成功に必要不可欠です。信頼できるパートナーは、リアルタイム・データ、高度なテクノロジー、人間の専門知識を組み合わせ、企業が複雑さを増すリスク環境に対処できるよう支援します。金融機関は、強固なパートナーシップを構築することで、機敏性、レジリエンス、コンプライアンス戦略への自信を維持することができます。

つまり、金融機関は、リアルタイム・データへの優先的な取り組み、自動化とAIの導入、プロセスの最適化、人間による監視の維持、信頼できるパートナーシップの構築によって、リスク管理を「必要に迫られて受動的に取り組む業務」から「戦略的優位性」へと変えることができます。

LSEGリスク・インテリジェンスは、リスク管理の効率化、風評被害の軽減、詐欺の防止、各国の法規制の遵守を支援するためのさまざまなソリューションを提供します。たとえば World-Checkによるスクリーニング・ソリューション、デューデリジェンス・レポートによるあらゆる企業や個人に対する詳細なバックグラウンド・チェック、革新的手法による本人確認、口座確認を通じて、お客様のリスク管理をサポートし、効果的かつ確実に業務を進められるよう支援します。詳細についてはこちらをご確認ください: [www.lseg.com/ja/risk-intelligence](http://www.lseg.com/ja/risk-intelligence)

ウェブサイト: [lseg.com/ja](http://lseg.com/ja) |  @LSEGplc  LSEG